

なぜ教育現場でニュースについて語る場が少ないのか ーメディア・リテラシー教育の視座からー

政治経済学部 国際政治経済学科 永田峻真

概要

デマやフェイクニュースが身近にあふれるポスト・トゥルースの現代。教育現場でもメディア・リテラシー教育が求められている。しかし、欧米諸国に比べて日本ではメディア・リテラシー教育が未だ浸透していないことも指摘されている。大学でメディアについて学び、教員免許取得のための勉強をしてきた自分自身の経験を振り返っても、メディアを批判的に捉えるような学びが少ないのではないかと感じている。特に、日本の学校では「ニュースについて扱いづらい」雰囲気が醸成されているのではないだろうか。メディア・リテラシー教育の普及を阻む要因について、日本的な教育文化や学校制度が根底にあると考え、現状の問題について取材を通して整理し、今の立ち位置からメディア・リテラシー教育をどう普及していけばよいか検討していく。

問題を明らかにするために、本ルポルタージュでは学校の先生・校長・マスメディア・インターネットメディアといったあらゆる立場から現実にメディアについて教える実践を行う諸団体取材し、調査していく。教育現場で実際に教員を務めていた立場からは、横浜市立あかね台中学校の社会科教師である中島寧々。大阪市の推進するGIGAスクール構想やコロナ禍のオンライン教育に対して、小学校の校長という立場から書面で異議を唱えた久保敬の2名取材した。現場におけるメディア・リテラシー教育の受け止めや、普及しない要因について現場を知る立場からどのように捉えているか伺った。その他にメディアという立場から、メディア・リテラシー教育に重点的に取り組んでいるNHKとスマートニュースにも取材を行った。NHKからは、オンラインで全国の小学校をつないで教育を行うプログラムである「つながる！メディアリテラシー教室」の運営に関わる大橋拓と阪本昌美、「アット！メディア」というメディア・リテラシーの番組を制作している陸田裕子に話を聞いた。スマートニュースからは、メディア・リテラシー教育研究所から、波多野真里子と宮崎洋子に取材を行った。それぞれが独自に行っている取り組みを中心にメディア・リテラシー教育の在り方についても意見を伺った。

取材をもとに、現場で情報モラル化して伝わっている「メディア・リテラシー」という概念の認識に関わる問題やニュースや政治について扱うことを忌避したり避けざるを得なかったりする現状が明らかになった。最後に、取材を通して考察したメディア・リテラシー教育普及への道を自分なりにまとめて整理している。